

侵攻を続けるロシアへの追加制裁として、バイデン米政権がロシア産アルミニウムに20%の関税を課す準備を進めていると報じ

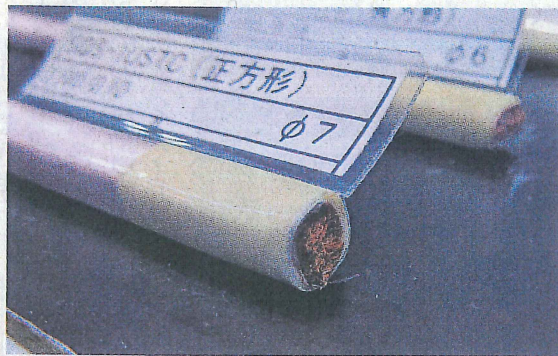
**米関税報道、影響は限定的**

米関税報道は、アルミ地金価格への影響は限定的だった。国際指標であるロンドン金属取引所(LME)アルミ相場は6日、報道後に上伸を見せたも

**角形リッツ銅線の提案強化**  
サイズ拡充・加工品など検討

**東特巻線**

電線加工メーカーの東特巻線(本社・長野県上田市、社長・本多豊氏)は注力製品である角形リッツ銅線の提案力を強める。サイズ展開の拡充や、他の部品と組み合わせた加工



注力製品の角形リッツ線

断面が円状のリッツ線に換算して直径3〜7ミリの顧客ニーズがあることから現行品よりも細径・太径な製品の追加や、サイズ展開拡充に向けた角形成形設備の増設を検討す

品の提案を検討。さらに新たな素材の適用も視野に入れる。

リッツ線は絶縁加工した極細銅線を撚り合わせた材料。同社が注力製品として位置付けている「SQLW四角断面リッツ線」は断面を四角形に成形することで、高密度なコイル巻きなどを可能にした製品となっている。現在のサイズ展開は視野に入れている。

2600ドルに届かず、前日とおおむね同水準のまま取引を終えた。バイデン米大統領が未承認であることに加え、米国はロシア産アルミの輸入依存率が低いと懸念が過熱しなかったとみられる。

ロシア産アルミの輸出先は新塊、合金ともに欧州が最大。欧州のほかではトルコ、日本、中国が主な輸出先となっている。

三井金属の22年4〜12月期連結決算は、売上高4982億8500万円、前年同期比7.5%増、経常利益243億7千万円で同4.8%減、純利益172億2500万円、同5.3%減。

**チリの22年銅生産**

**5.3%減、532万7000トン**

チリ銅委員会(コチルコ)が発表した2022年(1〜12月)のチリの銅生産量は前年比5.3%減の532万7千トとなった。同国最大のエスコンディエラ銅鉱山は前年を上回ったが、チリ銅公社(コデルコ)の生産量が前年比で2桁の減少となったほか、コジャワシ、ロス・ペランブレスといった主要鉱山

も減少し、全体では4年連続で前年を下回った。単月ベースでは10月を除くすべての月が前年同月比で減少だった。鉱山別ではエスコンディエラ銅鉱山が同4.2%増の105万4千ト、コジャワシ鉱山が同9.4%減の57万1千ト、ロス・ペランブレス鉱山が同15.5%減の28万4千ト、アン

**4〜12月期決算**

**三井金属 経常減益243億円**

三井金属の22年4〜12月期連結決算は、売上高4982億8500万円、前年同期比7.5%増、経常利益243億7千万円で同4.8%減、純利益172億2500万円、同5.3%減。

部門別の経常損益は機能材料が121億円(同47.8%減)、金属が95億円(同62%減)、モビリティが43億円(前年同期は3億円の赤字)、その他が1億円(同93.6%減)。

機能材料はキャリア付極薄銅箔をはじめ主要製品の減産などから減

**UACJ 経常益7割減**

UACJの22年4〜12月期連結決算は売上高7283億2600万円(前年同期比29.4%増)、経常利益104億4900万円(同71.0%減)、純利益73億3千万円(同68.4%減)、アルミ板販売量は100万9千ト(4.5%増)だった。

自動車材の販売が低調だったものの、エアコンフィンなどが販売は増加。海外拠点の缶材販売は底堅く推移した。しかしながらエネルギー価格の上昇などコスト増が大きく、利益は下押しされた。なお棚卸評価前の経常利益は158億